

2024 年度夏の三者総会 議案書

2024 年 8 月 22 日 (木) 開催

概要

本議案書は、2024 年 8 月 22 日 (木) 開催の、2024 年度夏の三者総会に提出されたものである。

目次

1	2024 年度予算案	['24/8/14 現在]	1
1.1	収入予定	1
1.2	支出予定	2
2	研究会パートの割り振り変更について		4
2.1	第 69 回原子核三者若手夏の学校の状況	4
2.2	第 69 回原子核三者若手夏の学校に参加した学生からの改善要望	4
2.3	研究会におけるパート割り振りの変更と、変更に伴う時間割策定における役職校の業務変更について	5
2.4	まとめ	5
3	2025 年度三者役職校一覧		6

1 2024 年度予算案

['24/8/14 現在]

文責：渋谷翔之 (名古屋大学)

1.1 収入予定

- (1) 前年度繰越金 (2023 年度決算終了時の繰越金額を記載) : ¥1,261,252
- (2) 参加費 (参加者 275 名) : ¥3,000 × 275 = ¥825,000
- (3) 外部団体への援助・協賛申請 (内訳は下表) : ¥500,450

団体名	内容	申請額
素粒子論グループ	旅費補助 *	200,000
基研	講師等旅費	297,450* ¹
日本物理学会	会誌原稿料	3,000
高エネルギー研究者会議	協賛	0
仁科加速器センター	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費 * ²	出版費
RCNP	協賛	0
KEK	協賛	0
申請額合計		500,450

* 秋季学会で申請後、繰越金の増加を理由に減額

*¹ 申請を1月に行った。繰越金の増加とポスター印刷費の削減のため例年より減額

*² 春季学会にて申請を行った。

収入合計：(1) + (2) + (3) = ¥2,586,702

1.2 支出予定

(1) 旅費補助：¥1,407,315

(2) 懇親会費用*：¥28,000

(3) 各役職校支出：¥419,274

役職名	今年度予算案	前年度決算額 * ¹
三者センター校	356,810	2775
三者事務局	0	0
三者準備校	22,000	682,470
三者企画校	10,974	11,337
素粒子論パート準備校	8,860	4,914
素粒子論パート講義録校	0	37,522
原子核パート校	20,630	15,646
計	419,274	754,664

(4) 次年度繰越金：¥732,113

* 講師及びキャリアフォーラム登壇者の懇親会参加費用

*¹ 前年度決算は2023年度三者センター校の決算報告に基づいている。

支出合計：(1) + (2) + (3) + (4) = ¥2,586,702

1.2.1 各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校 (有志学生連合)

申請項目	申請額
施設使用料	330,690
会場下見代	21,120
振込手数料	5,000
申請額合計	356,810

施設使用料：代々木オリンピックセンターを8/21-8/25の5日間使用、今年度は会場の確保をセンター校が行なったため計上

会場下見代：会場下見にかかる費用(名古屋から東京への交通費一名分、他二名は不要)、同上

振込手数料：旅費補助の振り込み手数料：5000円(2023年度予算案をもとに算出)

- 三者準備校 (東北大学)

申請項目	申請額
備品送料	5,000
ポスター制作費	12,000
消耗品代	5,000
申請額合計	22,000

備品送料：次年度準備校への備品運搬費(2017年度予算案をもとに算出)

ポスター制作費：Adobe Creative Cloud コンプリートプラン(学生・教職員用)2人分(3ヶ月分)
(<https://www.adobe.com/jp/acrobat/pricing/students.html>)

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費。(2017年度予算案をもとに算出。)

- 三者企画校 (金沢大学)

申請項目	申請額
優秀発表賞 賞状 (A4) 印刷 (計 12 枚)	6,534
賞状郵送 (レターパックライト)	4,440
申請額合計	10,974

優秀発表賞 賞状 (A4) 印刷 (計 12 枚)：<https://d-shojo.com/sj/page/price/index.html>

賞状郵送 (レターパックライト)：賞状の郵送料。<https://www.post.japanpost.jp/service/letterpack/>

1.2.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート準備校 (広島大学)

申請項目	申請額
機材送料	5,500
USB Type C → VGA 変換アダプタ	3,360
申請額合計	8,860

機材送料：夏の学校会場、次年度準備校への機材運送料。

USB Type C → VGA 変換アダプタ：研究会において映像機器と PC の接続に必要。

- 原子核パート校

申請項目	申請額
文具代	3,000
コピー代	2,000
録画機材一式	13,680
記録・移行用 microSD カード (256GB)	1950
申請額合計	20,630

文房具代：ホワイトボードマーカー、ポインター等

コピー代：プログラム、概要集、テキストの予備等の印刷費

録画機材一式：レンタルサイト <https://komono.me/rental/product/fdr-ax40-se>(2024/02/26 閲覧)にて 8/20-8/25 の 6 日間レンタルを想定

記録・移行用 microSD カード (256GB)：全日程の講義録画を FullHD で撮るための microSD カード。講義後の夜に外部記憶装置へ移行するのは大変なため、余裕を持たせて 8/20-31 のレンタルを想定

2 研究会パートの割り振り変更について

2024 年 3 月 18 日

文責：西淵拓磨 (東京都立大学)

2.1 第 69 回原子核三者若手夏の学校の状況

2023 年 8 月に行われた第 69 回原子核三者若手夏の学校は 2019 年以来 4 年ぶりとなる対面開催で行われたが、当初の予想を上回る参加者増により、発表時間を短くせざるを得ず、十分な発表時間を確保できない事態に陥った。発表時間を短くするほかに、一部の参加者には口頭発表をポスター発表に変更して貰うよう呼びかけを行ったが、それでもなお、研究会が長時間のものとなり、参加者にはかなりの負担を強いる結果となってしまった。修士課程の学生や若手研究者に発表の機会を与えることが目的である夏の学校においては、十分な発表時間の確保は至上命題であることから、本件に関しては早急な改善が必要である。

2.2 第 69 回原子核三者若手夏の学校に参加した学生からの改善要望

実際に参加した学生からも改善要望が寄せられており、主なものとしては、

- 素粒子パート研究会にて、現象論 (Ph) の発表を理論 (Th) の学生が聞かない、もしくはその逆が散見される。Ph/Th をパラレルセッションにしてしまってもどうか？
- 素粒子パートのうち、ハドロン物理に近い内容である QCD 関連の学生は原子核パートの研究会で発表してもらってはどうか？

の二点が挙げられる。先の 2.1 節で指摘した、第 69 回夏の学校において十分な発表時間を確保できていなかった状況を改善するにあたっては、これらの意見を取り入れることも重要であると考えられる。また、素粒子分

野の学生に原子核パートで発表してもらうことで、異分野合流の促進という副次的な効果も期待される。

2.3 研究会におけるパート割り振りの変更と、変更に伴う時間割策定における役職校の業務変更について

先の 2.1 節で説明した第 69 回夏の学校における研究会の状況および、2.2 節で説明した学生からの要望に基づき、研究会におけるパートの割り振りを、従来の所属に基づいた機械的な振り分けから発表内容に基づいた振り分けへと変更する方向で考える。具体的にはアブストの内容に応じて、

- 素粒子パート (Ph セッション)
- 素粒子パート (Th セッション)
- 原子核パート (一部素粒子パートの QCD 関連の学生含む)

の 3 つに分ける。

まずは第 69 回夏の学校での分担に基づいて、どの役職校が担当していたかを振り返ると、参加登録関連は準備校が担当し、時間割作成は企画校が準備校と協議のうえでパート割り振りも含めて行っていたようである。しかし、従来の形態のまま、アブストの中身を見て振り分けを行うことは単独の研究室単位ではまず不可能であるため、アブストラクトに基づいた振り分け作業については素粒子パート校および原子核パート校に任せることとする。この場合の参加登録から時間割作成までの流れは以下のようになる。

1. 準備校が参加登録フォームの作成等の参加登録関連業務を行う。
2. 参加登録フォームに登録された学生のうち、素粒子系の研究室に所属する学生については、素粒子パート準備校および素粒子パート事務局校が、アブストラクトの内容に基づいて素粒子パート (Ph/Th/QCD 関連) に振り分ける。
3. 振り分けられた素粒子パート (QCD 関連) の学生について、原子核パート校がアブストラクトの内容が原子核パートのもの大きく逸脱していないかを確認する。あまりに原子核パートの発表内容とかけ離れたものであると判断された場合は、素粒子パート (Th) に振り分ける。
4. 参加登録フォームに登録された学生のうち、原子核系の研究室に所属する学生については、従来通り原子核パートへ振り分ける。
5. 上記の振り分けに基づいて、企画校が準備校と協力して時間割作成を行う。

なお、本提案においては、素粒子パート役職校の負担が大きくなることが懸念されるほか、素粒子パートの平行セッション化によるパート内交流の減少が懸念される。前者については、2024 年度の素粒子パート校代表者に意見を求め、問題ないとの返答を頂いたが、後者に関しては 2024 年度の運用実績に基づいて随時改良することも併せて提案したい。

2.4 まとめ

2023 年に行われた第 69 回原子核三者若手夏の学校では、予想外の参加者増により第 68 回以前と同等の発表時間の確保が難しい状況となった。また、学生からの改善要望が上がったことも鑑みて、研究会パートの割り振りを従来の所属に基づいたものからアブストラクトに基づいたものへと変更し、併せて時間割策定の流れについても変更を提案する。

3 2025 年度三者役職校一覧

2025 年度三者若手夏の学校における三者役職校が以下の通りとなりました。

- 三者センター校：京都大学
- 三者準備校：東京大学
- 事務局校：立命館大学
- 企画校：茨城大学